

（１）これまでの取組と今後の方向性について

資料 1

◎第3期計画の体系図

1. 子ども教育の充実

基本施策	施 策
(1) 幼児教育の充実	①教育・保育の質の向上
	②園・小連携の充実
	③園の特性を踏まえた取組の推進
(2) 基本的な生活習慣の確立	①みさと運動の推進
	②メディアコントロールの推進
	③家庭学習の推進
(3) 「確かな学力」の育成	①確かな学力の育成を図る学習指導の工夫・改善
	②外国語（英語）教育の充実
	③園・小・中学校連携の強化
	④ICT 活用による学びの推進
(4) 「心豊かな子ども」の育成	①道徳教育の充実
	②伝統・文化等に関する教育の推進
	③環境教育の推進
	④キャリア教育の充実
	⑤学級力の向上
	⑥読書活動の充実
(5) 「健康でたくましい子ども」の育成	①健康教育の充実
	②体力向上のための学校教育の充実
	③食育の推進と学校給食の充実
(6) どの子どもも学べる環境づくり	①特別支援教育の充実
	②教育相談の充実
	③不登校への対応の充実
	④いじめ防止対策の推進
(7) 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進	①地域の特色をいかした教育環境の充実
	②コミュニティ・スクールの導入
	③学校施設開放
(8) 学校教育施設・設備の充実	①学校施設の整備
	②ICT 環境等の整備
	③学校図書館の充実
	④学校給食センターの建設
(9) 児童生徒の安全・安心の確保	①通学路の安全点検
	②防災防犯教育の推進
	③地域・関係機関との連携

基本施策	施 策
(10) 時代に対応できる教育体制整備	①学校における教員の働き方改革の推進
	②学校規模適正化・適正配置等の検討

2. 生涯学習の充実

(1) 家庭教育の推進	①学習機会の充実
	②家庭・地域・学校等の連携
	③「みさと運動」の充実と普及啓発
(2) 青少年の健全育成	①青少年活動の支援
	②子どもの良好な成育環境の確保
	③放課後子ども教室の充実
(3) 生涯学習の推進	①生涯学習活動の支援
	②学びの場の充実
	③生涯学習講座の充実

3. 生涯スポーツの充実

(1) 生涯スポーツ・レクリエーションの振興	①スポーツ・レクリエーション活動の推進
	②健康のための運動等の支援
	③地域におけるスポーツ活動の支援
(2) スポーツ施設の充実	①スポーツ施設の効率的な運営の促進
	②スポーツ施設・設備の整備
(3) スポーツを通じた交流の促進	①スポーツイベントの開催
	②スポーツの交流の促進

4. 地域文化の振興

(1) 文化財の保存と活用	①文化財の保存・継承
	②文化財の有効活用
(2) 伝統文化の継承	①無形民俗文化財の保存活動の支援
	②後継者の育成
(3) 芸術・文化活動の推進	①芸術・文化団体等の育成・支援
	②芸術・文化に親しむことができる環境づくり

1 子ども教育の充実

●凡例

〇〇〇*がついている用語は〇〇頁以降に解説が載っています。

知・徳・体のバランスのとれた「美里っ子」の育成のため、園小中連携プログラムの実践を通して幼児教育と連携した小中一貫教育を推進してきました。こども園同士の連携という点では、フリー保育参観などを通して、私立・町立の枠を超えて研修しあうことができました。また、こども園と小学校との連携という点では、園小をつなぐ架け橋期カリキュラム*を策定し、実践検証を行っているところです。小中連携という点では、本郷地域においては本郷学園が義務教育学校として、高田地域においては高田中学校と高田小学校、宮川小学校が小中一貫校として、新鶴地域においては新鶴中学校と新鶴小学校が小中一貫校として、教職員、児童生徒の交流、協力が進み、これまで以上に一体的な教育を行うことができる環境を整えました。

今後は、個に応じた指導体制の構築や、学校運営協議会や地域学校協働本部事業などを通して、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを推進していくことで、学校、保護者、地域が連携して、確かな学力とバランスのとれた人間性・社会性を身に付けた「美里っ子」の育成に努めていきます。

○会津美里町第3次総合計画における数値目標の達成状況

成 果 指 標	現状値 (H30)	実績値 (R3)		実績値 (R4)		実績値 (R5)		実績値 (R6)		目標値 (R7)
(小学6年生) 標準学力検査*(NRT)の 偏差値	53.1	50.6		50.0		48.9		51.3		54.0
(中学3年生) 標準学力検査(NRT)の 偏差値	50.2	49.4		52.3		47.3		49.2		52.0
肥満傾向の割合(%) ※肥満度20%以上	12.2	小6	12.1	小6	22.8	小6	13.2	小6	19.4	9.9
		中3	14.3	中3	10.8	中3	9.2	中3	11.9	
(中学3年生) 将来人の役に立つ人間になり たいと思う生徒の割合(%)	69.4	73.1		68.1		77.1		59.8		75.0

◆「標準学力検査(NRT)」の偏差値は、小学6年生では、ほぼ平均値を上回っているものの、目標値には届いていない状況です。中学3年生では、年度によるばらつきがあり、平均を越えたり、達していなかったりすることがありますが、目標値には届いていない状況です。「肥満傾向の割合」については、小学6年生においても中学3年生においても、年度によるばらつきがあります。近年はやや小学6年生の方が肥満傾向の割合が高い傾向にあります。

(1) 幼児教育の充実

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①教育・保育の質の向上	<p>各園においてドキュメンテーション*を用いるなど、工夫して園内研修を積み重ねたことで子どもの育ちへの理解が深まりました。その理解をもとに個々の学びを伸ばす援助を行うとともに、他の幼児とのかかわり方を工夫したことで、子どもたちはイメージを共有しながら遊びを展開できるようになり、互いを認め合う心が育まれました。</p> <p>今後は、より一層の交流を通して、それぞれの長所を学び合いながら、更なる質の向上を目指していくことも大切です。</p>
②園・小連携の充実	<p>園・小連携の充実については、年間を通して計画的に園・小の交流を行い、学びのつながりや園・小それぞれの理解が深まり、架け橋期のカリキュラム*を作成することができました。</p> <p>今後は、架け橋期のカリキュラムの実践と見直しを通して、園・小の協議や連携をより強くしていく必要があります。</p>
③園の特性を踏まえた取組の推進	<p>町内のこども園で相互に保育を参観するフリー参観やノープロブレムミーティング*研修に多くの職員が参加し、各園の効果的な取組を参考にするなどして、自園の保育内容の改善を図りました。</p> <p>今後は、それぞれの園を尊重しながら、特性をもつ子どもに応じた適切な教育・保育が実現されるようにしていくという視点も求められます。</p>

<今後の方向性>

- ・ 幼児教育センター指導主事や大学教授等の講師の招聘を推奨するなどして、各園における教育・保育の質と指導力の向上を推進
- ・ ノープロブレムミーティングや小学校区ごとの園小の合同研修の推進による、より一層の相互理解
- ・ 架け橋期のカリキュラムの実践を通じた認定こども園と小学校の連携の強化
- ・ 私立・町立の認定こども園の交流を通じたより一層の相互理解の推進とそれぞれの長所の活用

(2) 基本的な生活習慣の確立

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①みさと運動の推進	<p>園・学校だよりや保護者会などで具体的行動目標を示すなどして保護者と共通理解を図りながら取り組んできており、子どもたちも実践することができるようになりました。</p> <p>今後は、保護者や地域の方々も巻き込みながら、挨拶返事等による明るい街づくりにつながることを望まれます。</p>
②メディアコントロールの推進	<p>園では絵本の貸し出しを推進し、子どもも保護者も意識の改善につながりました。また、小・中で同一の「コントロール週間」を位置づけ、意識の高まりが見られました。</p> <p>保護者会で周知したり、PTA主催で医師を招いての講演会を実施したりして取り組んでいるところですが、今後は、引き続き保護者の理解や協力を得て効果的な取組としていく必要があります。</p>
③家庭学習の推進	<p>タブレット端末の持ち帰りによるAIドリルの活用が進み、家庭学習の幅が広がりました。また、授業と結びつくように課題の与え方を工夫し、目標を持って取り組めるようにしました。さらに、メディアコントロールと関連付け、自ら計画を作らせたことで、自己マネジメント力*の育成に努めることができました。</p> <p>今後は、キャリア教育の充実等を通して、自らが学ぶ意欲を高め、自らをマネジメントできるよう支援していくことが大切です。</p>

＜今後の方向性＞

- ・学習意欲の喚起の観点、健康及び犯罪被害防止の観点から、家庭や地域と連携してメディアとの適切な関わり方についての指導の継続
- ・一人一台端末を活用した、個に応じた家庭学習の推進の継続
- ・キャリア教育の充実などを通して、自己マネジメント能力の更なる育成

(3) 「確かな学力」の育成

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①確かな学力の育成を図る学習指導の工夫・改善	<p>各校の実態に応じて、県教育委員会から指導主事を招くなどして「主体的・対話的で深い学び」や、リーディングスキル*の視点による授業改善などに取り組むとともに、ＩＣＴの活用を促進し、指導力の向上に努めました。</p> <p>今後は、多様な子どもたちに応じて、個別最適な学びと協働的な学びの視点も加えながら、子どもたちが主体的、探究的に学ぶことができるよう更なる授業改善を進めていく必要があります。</p>
②外国語（英語）教育の充実	<p>外国語（英語）教育の充実については、小学校の英語専科教員の専門的な指導や国内外の小学校とのオンライン交流学习などを通して、外国語（英語）への関心・意欲が高まり、中学校においても実践的な学習の場であるブリティッシュヒルズでの体験や英語検定への補助等により、学習のモチベーションを高めることができました。</p> <p>今後は、外国語教育に大きな変革をもたらす可能性があるAIの活用方法についても注意深く動向を探っていくことが求められます。</p>
③園・小・中学校連携の強化	<p>園・小・中学校連携の強化については、園・小においては年間を通して計画的に交流を行ったことで、学びのつながりへの理解が進みました。小・中においては、学校運営協議会や教育課程の作業部会、乗り入れ授業を行ったことで、目指す子どもの姿を共有し、学びを円滑につなぐことができました。</p> <p>今後は、教職員及び子どもたちの交流を一層促進し、幼児期から15歳までを見通して、将来を生き抜くために必要な学力の育成を図っていく必要があります。</p>
④ICT活用による学びの推進	<p>ＩＣＴ活用による学びの推進については、児童・生徒が調べたり、まとめたり、発表したりする場面で効果的に活用され、情報活用能力*が高まってきています。</p> <p>ＩＣＴの活用について各校で研修が行われていますが、さらに教員による技能の習得と習熟が必要です。今後は、児童・生徒が活動する機会を確保し、主体的に探究学習に取り組むことができるような個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた効果的な活用の方法について研究を進めていく必要があります。</p>

＜今後の方向性＞

- ・園・小・中連携プログラムの実践を通した園・小・中学校連携のさらなる強化
架け橋プログラムの実践による園・小のさらなる連携
小中一貫教育の推進を通した小・中のさらなる連携
- ・ICTの活用等を通した、授業改善※の推進
主体的・対話的で深い学びの実現
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

(4) 「心豊かな子ども」の育成

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①道徳教育の充実	<p>担任に加え、学年担当教員が授業を行うようにしながら授業研究や改善を進め、役割演技等により自分事としてとらえさせるなど、「考え、議論する道徳」が実践され道徳的実践力の高まりが見られました。</p> <p>今後も道徳の授業を核としながら、教育活動全体を通じて道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養っていく必要があります。</p>
②伝統・文化等に関する教育の推進	<p>総合的な学習の時間などにおいて、「西勝和紙」の再現など、各校の地域に根ざした伝統・文化の体験を通して、地域を誇りに思う心や愛する心を醸成することができました。</p> <p>今後も地域に興味をもち、祭礼などの行事への参加や体験等を通して、地域そして自らを誇りに思う子どもたちに育てていくことが重要です。</p>
③環境教育の推進	<p>主体的な緑化活動や田畑や農園での体験学習、地区のクリーンキャンペーンなどを通して環境について考え、環境を守ることの大切さを学ぶことができました。</p> <p>今後は、自分たちだけでなく未来に生きる後輩たちの環境にも思いをはせることができるようにしていく視点も求められます。</p>
④キャリア教育の充実	<p>キャリア講演会や職場体験学習、地域の方との交流を通して自らの生き方について考えさせる機会を設けました。また、各行事等において、目標達成までのプロセスを重視した活動と振り返りを行ったことで、自己の役割を果たしながら自分らしい生き方の実現について考えを深めることができました。</p> <p>今後は、特別活動の学級活動を要としつつ、教育活動全体を通じて、自ら進路や生き方を判断し、主体的に行動していく能力や態度を育成していく必要があります。</p>
⑤学級力の向上	<p>学級力の向上については、WEBQU*によって学級の状態を迅速に把握し、特別支援教育アドバイザーが参加して分析を行い、学級経営の改善を図ることができました。</p> <p>今後は、特別活動における話合いや体験活動を充実させ、励まし合い、支え合うとともに、高め合う学級づくりを推進していくことが重要です。</p>
⑥読書活動の充実	<p>学校図書館支援員や図書ボランティアによる環境整備</p>

	<p>が進み、朝の読書活動などを行うとともに、読書だよりの発行などにより長期休業期間における読書量の改善を図ることができました。</p> <p>読書習慣が十分に身に付いていない子どももあり、今後とも学校と家庭が連携を深めて読書に親しむ習慣づくりが必要です。</p>
--	--

＜今後の方向性＞

- WEBQUを用いた実態把握と特別活動の充実による学級力の向上
- キャリア教育の充実を通した、自己理解と学習意欲の向上
- 伝統・文化等に関する教育の推進により、地域や自らを誇る気持ちのさらなる醸成

(5) 「健康でたくましい子ども」の育成

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①健康教育の充実	<p>生活習慣の改善や感染症対策などの日常的な指導に加えて、外部講師による専門的な指導により心身の健康の保持増進のための実践力を高めました。</p> <p>また、「自分手帳」やセルフケアチェックを通して、セルフコントロール能力の育成に努めました。</p> <p>今後は、ストレスへの対応などの心の健康についても、自ら解決を図る力を高めていく必要があります。</p>
②体力向上のための学校教育の充実	<p>体育の授業における運動身体づくりプログラム等により各校の課題に応じた体力向上を図ることができました。</p> <p>コロナ禍においては、運動習慣の確立に課題があり、今後も学校で必要な運動量を確保するとともに、自ら体力向上に取り組む意欲を高めていくことが必要です。</p>
③食育の推進と学校給食の充実	<p>栄養士と連携した食育の授業を行うなどして、児童・生徒の食への理解が進みました。</p> <p>肥満傾向はなかなか改善されにくいとため、今後も引き続き発達段階に求められる運動量を確保するとともに、バランスの取れた健康的な食生活の充実が図られるようさらに家庭との連携を進めていく必要があります。</p>

<今後の方向性>

- ・「**自分手帳**」の活用などを通じたセルフコントロール能力の育成
- ・**ストレスへの対応など心の健康についての指導の充実**
- ・園・小・中の連携した取組としての運動の習慣化
- ・児童生徒への食育の充実及び保護者への積極的な啓発活動の促進

(6) どの子ども学べる環境づくり

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①特別支援教育の充実	<p>特別支援コーディネーター*を中心にアセスメントシート*を活用するなどして、教育的ニーズに応じて合理的な配慮を検討し、適切に対応することができました。</p> <p>今後は、研修による教員の理解の深化や指導技術の向上も必要ですが、保護者や地域の理解も不十分であり、地域の福祉関係者や専門家との連携などを通して、保護者に対する啓蒙活動を進め、理解を深めてもらう必要があります。</p>
②教育相談の充実	<p>生活アンケートに加え「まなびのあしあと」*の有効活用により、児童・生徒一人一人の変化を把握し、コメントバックによる信頼関係を構築することによって、早期対応できました。また、スクールカウンセラーや子どもと親の相談員、教育相談員の配置により、きめ細やかな相談体制を整備し、充実を図りました。また、巡回型の通級指導教室を活用し、ADHDの児童・生徒に対する丁寧な指導を行うことができました。</p> <p>今後も引き続き、きめ細やかな相談体制を維持していくことが求められます。</p>
③不登校への対応の充実	<p>スクールソーシャルワーカーを含めた関係機関の協力を得ながらケース会議を開催し、児童・生徒・保護者に対する対応を行うことができました。また、SSR*やroomF*を選択肢の一つとして提供し、一人一人の実態に応じた支援の充実に努めることができました。</p> <p>今後は、新規不登校児童・生徒の数を減らすとともに、不登校児童・生徒に対しては、より一層多様な学びの場を提供していくことが求められます。</p>
④いじめ防止対策の推進	<p>生徒指導協議会や校内研修、校内生徒指導委員会等により、いじめに対する教員の意識が高まり、日常の観察や生徒指導アンケートを通して早期発見に努め、対応することができました。</p> <p>今後は、さらに保護者との連携を図りながら、未然防止に努め、いじめが起きた場合には、早期発見と組織的な早期対応を行っていく必要があります。</p>

＜今後の方向性＞

- ・ 特別支援教育アドバイザーによる学校からの相談に対する支援の充実
- ・ 特別支援教育についての研修の充実、保護者地域への啓蒙活動の推進

- まなびのあしあと、WEBQUを用いた実態把握と特別活動の充実による対応
 - SSWによる関係機関との連携強化を通じた、個に応じた適切な支援の充実
 - 学びのセーフティネットとして、多様な学びの場の提供、ICTを活用した学習支援
 - いじめ見逃し〇に向けた、相談できる環境の維持
- 子どもと親の相談員、町教育相談室（＝教育支援センター）相談員

(7) 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①地域の特色をいかした教育環境の充実	<p>生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域の方々の協力を得て、伝統や文化、農業などについて体験的に学ぶことができました。また、地域の方々によるボランティアとして、学習、給食配膳、見守り活動などが行われ、徐々に活性化しつつあります。</p> <p>＜今後＞、地域にとっても学校を核とした地域づくりが進むよう、地域の活性化につながるような取組を推進していく必要があります。</p>
②コミュニティ・スクールの導入	<p>学校運営協議会を中心に学校・家庭・地域が一体となった特色ある学校づくりが進んでいます。</p> <p>＜今後＞は、学校運営協議会をより活性化させ、地域の声を反映させた教育課程の実現や、学校及び地域の課題の解決を図っていくことが求められます。</p>
③学校施設開放	<p>オンライン予約システム、体育館へのキーボックスの設置により、学校の負担軽減が図られる中で、地域団体が有効に活用できています。</p> <p>＜今後＞も、体育施設や図書館的機能などの開放により、地域コミュニティの活性化に寄与していくことが求められます。</p>

＜今後の方向性＞

- ・ 熟議の充実などを通じた学校運営協議会の活性化。
- ・ 「学校応援団」ボランティア制度のより広範囲で積極的な活用。
- ・ 学校を核とした地域づくりのさらなる促進。
(地域行事等と学校との連携など)

(8) 学校教育施設・設備の充実

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①学校等施設の整備	<p>学校と情報共有を進めながら、園舎や校舎の老朽化などによる危険性を早期発見し、予防保全と長寿命化を図っています。</p> <p>今後は、エアコン未設置の教室への整備促進や照明のLED化などの整備を図っていく必要があります。</p>
②ICT環境等の整備	<p>授業支援ソフト、デジタルドリルなどの授業の充実につながるものに加え、「コグトレオンライン」*などで学びの基礎力を高めたり、「まなびのあしあと」などで心の健康を把握したりする環境を整えることができました。またICT支援員の配置により、教員のスキルアップや年度更新作業などの効率化が図られました。</p> <p>今後は、ICTの活用を一層促進するため、年度末、年度初めの更新作業の効率化のため、専門的な支援員の配置などについても検討していく必要があります。</p>
③学校図書館の充実	<p>図書館支援員により図書室の環境整備が進められ、読書学習センターとしての機能向上が図られています。また、図書館担当教員や児童・生徒による図書委員会と連携して読書活動が推進されています。</p> <p>今後も、環境整備等の充実に努め、図書室が効果的に利用されて、児童・生徒の読書量の増加や学習の質の高まりが求められます。</p>
④学校給食センターの建設	令和4年4月に供用を開始することができました。

<今後の方向性>

- ・安全安心な学習環境整備の促進。
- ・タブレット端末の更新など、効果的にICTを活用できる環境整備の継続。
- ・学校のICTの活用を一層促進する専門員の配置。
- ・図書館支援員による、図書環境の充実と読書活動の一層の推進。

(9) 児童生徒の安全・安心の確保

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①通学路の安全点検	<p>学校からの自主点検をもとに通学路交通安全推進協議会が危険箇所を確認し、対策を講じることができました。</p> <p>今後も、地域や保護者と連携して危険箇所を把握し、適切な対策を講じていく必要があります</p>
②防災防犯教育の推進	<p>交通安全教室、避難訓練、防犯教室等を開催し、児童・生徒の具体的な危機回避行動について指導し、充実を図りました。</p> <p>今後も、具体的な危険を想定した防災防犯教育の機会を確保し、身を守る具体的な行動を身に付けさせていく必要があります。</p>
③地域・関係機関との連携	<p>教員と連携してPTAが危険箇所の看板設置を行ったり学校運営協議会を通じて地域住民が見守り活動を行ったりすることで安全対策を強化することができました。</p> <p>今後も、熊や不審者に関する情報については、保護者や地域の方々と速やかに共有し、対策を講じていく必要があります。また、不審者による凶悪な事件や暴走車両による交通事故などを踏まえ、児童・生徒の危機意識を高めていくとともに、地域との連携をさらに深めていくことが必要です。</p>

<今後の方向性>

- ・学校運営協議会や地域ボランティアなどによる地域が子どもたちを見守る体制の充実。
- ・現実の危機を想定した防災防犯教育の一層の充実。

(10) 時代に対応できる教育体制整備

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
①学校における教員の働き方改革の推進	<p>スクールサポートスタッフ、特別支援教育支援員、学校図書館支援員、ＩＣＴ支援員、部活動指導員等を配置するとともに、学校の応援団などのボランティアの活用を推進し、教員本来の業務に専念する体制整備に努めることができました。また、各校において校内検討委員会を設け、会議の精選や教科担任制の拡充、ＩＣＴを活用した校務の負担軽減を行い、働き方改革を推進しています。</p> <p>今後は、地域人材やＩＣＴの活用についてさらに研究を深め、教員が児童・生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるようにしていく必要があります。</p>
②学校規模適正化・適正配置等の検討	<p>学校規模適正化・適正配置等について検討会を開催し、当面の方針を決定することができました。</p> <p>今後は、小中一貫教育をより一層推進していくとともに必要に応じて、学校運営協議会などの議論も踏まえて検討していきます。</p>

<今後の方向性>

- ・学校運営に係る専門人材の配置充実。
- ・ＩＣＴの活用と地域の教育力の活用推進。
- ・教科担任制など学校内部の組織づくりの工夫改善の推進。
- ・学校規模・適正配置に係る議論の必要性についての検討。

2 生涯学習の充実

個人の成長だけでなく、地域社会の活性化につながる生涯にわたる学習する環境づくりとして、家庭教育、青少年の健全育成などをはじめ時代の変化に対応した事業を展開しました。

家庭教育は教育の原点であることを念頭に、子育てに関する講座の開催や地域の特性を踏まえた事業を行いました。また、地域学校協働本部により「学校の応援団」を拡充し、学校のニーズに即した支援の体制整備と積極的な運用に取り組みました。

今後は、家庭教育の様々な学びの場をさらに充実させるとともに、地域課題解決のための学習を取り入れていく必要があります。

○会津美里町第3次総合計画における数値目標の達成状況

成 果 指 標	現状値 (H30)	実績値 (R 3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	目標値 (R 7)
生涯学習講座に参加している町民の割合(%)	37.7	26.7	32.6	34.6	36.4	38.0
目標を持って学習を行っている町民の割合(%)	40.0	30.4	30.1	34.1	32.1	42.0

◆新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、生涯学習講座に参加している町民は低い割合となりましたが、徐々に目標値にまで回復してきています。一方で、目標を持って学習を行っている町民の割合は目標値には届いていない状況です。

(1) 家庭教育の推進

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① 学習機会の充実	<p>小学校での就学時健康診断の機会に家庭教育の担い手である保護者を対象とし、子どもに対する関わり方や親自身のメンタルケアの方法など、子育てに必要な内容の講座を開催し、子育ての不安や悩みの解消に努めました。</p> <p>今後も家庭教育は教育の原点であることを念頭に置き、関係団体と連携し、支援の支援の具体的体制づくりを検討していく必要があります。</p>
② 家庭・地域・学校等の連携	<p>各生涯学習センターにおいて、親子を対象に地域の特性を踏まえた事業を展開し、地域の方の協力を得て自分の地域に対する理解と郷土を愛する心の醸成に努めました。また、地域を超えて体験的な学習機会を提供する「いきいき体験事業」等の学びの機会を通して、健全な心の育成に努めました。</p>
③ 「みさと運動」の充実と普及・啓発	<p>青少年を対象とする講座や教室において、「あいさつ」、「返事」、「履物をそろえる」ことの大切さを説明し、その浸透を図りました。</p>

<今後の方向性>

- ・全学年の保護者を対象とした、家庭教育の様々な学びの場を充実させる。
- ・親子のふれあいを重視した読書活動

(2) 青少年の健全育成

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① 青少年の健全育成	<p>伝統文化や伝統芸能、自然体験などの体験的な学習活動を継続的に実施することで、豊かな心の成長に繋がるように努めました。また、姉妹都市の檜葉町との交流事業では、子どもたちがお互いの地域の歴史や文化に触れることにより、仲間づくりと震災に対する理解を深めることが出来ました。</p> <p>今後も地域を超えた体験的な学習機会を提供し、他校や異学年との交流を図っていきます。</p>
② 子どもの良好な成育環境の確保	<p>地域学校協働本部により、各小中学校からの学習支援や部活動支援等の依頼に応じることができるよう「学校の応援団」の拡充により、学校のニーズに即した支援を行うための体制の整備と積極的な運用に取り組みました。</p> <p>今後もより多くの地域の人材確保に取り組みます。</p>
③ 放課後子ども教室の充実	<p>子どもたちが安心して楽しく活動できる場を確保し、地域の方々の協力を得て、学校では体験できない体験活動やスポーツ等、子どもが興味を持つ活動を行うことが出来ました。</p>

＜今後の方向性＞

- ・ 地域学校協働活動の充実と、家庭・地域・学校の連携強化
- ・ 有害情報のフィルタリングやメディアコントロールへの取り組み

(3) 生涯学習の推進

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① 生涯学習活動の支援	<p>町広報紙やまなびネット、町LINEなどを活用し、情報発信に努めた結果、参加者の拡大に繋がっています。</p> <p>今後も子どもから高齢者まで、その特性に合わせた講座を開催し、町民の自主的な学習活動を支援します。</p>
② 学びの場の充実	<p>公民館や各生涯学習センターでのアンケート調査などにより、幅広いニーズを的確に把握した学習機会を提供し、年齢や性別にとらわれない講座を充実させました。</p> <p>引き続き多様化する学習ニーズに即した事業計画を立案する必要があります。</p>
③ 生涯学習講座の充実	<p>「美里楽園」では、会員により組織する運営委員会で年間計画を作成するよう促し、地元の歴史や文化の再発見、なりすまし詐欺の防止やSDGs等の学習会など旬の話題を取り入れた有意義な講座の開催により会員数が増加し、満足度が向上しました。</p>

<今後の方向性>

- ・現在直面している地域課題解決のための学習を取り入れていく。
- ・多様化する学習ニーズを取り入れた講座の充実。

3 生涯スポーツの充実

新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、多人数があつまるスポーツ大会は一時的に減少しましたが、地域の理解を得ながら事業内容を検討し、開催に向けた支援を行いました。また、公共施設予約システムが普及し、利用者の利便性を向上させました。

今後は、スポーツ施設や設備の整備を進めるとともに、スポーツ施設利用の公平性を高めるための調整方法を改善する必要があります。

○会津美里町第3次総合計画における数値目標の達成状況

成 果 指 標	現状値 (H30)	実績値 (R 3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	目標値 (R 7)
スポーツ施設の利用者 数（千人）	119.87	55.86	81.36	79.40	72.71	120.22
実際にスポーツを行っ ている人の割合（％）	35.1	37.3	34.5	43.0	36.0	41.8

◆新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、スポーツ施設の利用者数は多く減少しました。スポーツ施設の改修等の影響もあり、利用者数は目標値に届いていない状況です。しかし、実際にスポーツを行っている人は目標と近い割合で推移しています。

(1) 生涯スポーツ・レクリエーションの振興

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① スポーツ・レクリエーション活動の推進	<p>各種スポーツ教室の開催や、町民スポーツ大会、ふれあいウォーク等、町民が主体的に参加できる機会の確保に取り組みました。</p> <p>引き続き、地域スポーツクラブとの連携を図りながらスポーツに親しめる事業を推進します。</p>
② 健康のための運動等の支援	<p>町民の健康づくりを推進するため、地域活動推進員が中心となり、地域の実情に合った運動会やスポーツ大会等を実施したことは、スポーツ活動による健康増進の意識向上に留まらず、町民同士の交流と親睦を図る機会を確保しました。</p>
③ 地域におけるスポーツ活動の支援	<p>スポーツ大会・運動会等の再開が困難な地域があるなかで、地区合同による開催を支援することにより、一部の地域において大会を実施することができました。</p> <p>今後も地域の実情に合ったスポーツ事業の内容を検討しながら開催する必要があります。</p>

＜今後の方向性＞

- ・地域でのスポーツ活動への積極的な支援
- ・スポーツに親しめる事業の実施

(2) スポーツ施設の充実

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① スポーツ施設の効率的な運営の促進	<p>公共施設予約システムの普及により、利用者の利便性向上や施設の効率的な利用に繋がりました。</p> <p>今後は、指定管理者制度による効率的な運営や、学校体育施設開放の利用促進を図ります。</p>
② スポーツ施設・設備の整備	<p>「公共施設長寿命化計画」に基づき、高田体育館の耐震化と機能強化を図るための改修工事が完了し、年度内の供用開始により利便性が向上しました。また、ふれあいの森公園の改修にあたり、陸上競技などスポーツの専門的知識を有する方々の参画を得て、ふれあいの森公園改修の方向性を決めました。</p>

＜今後の方向性＞

- ・公共施設予約システムの公平性を高め、効率的な利用促進
- ・既存施設の在り方の検討

(3) スポーツを通じた交流の促進

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① スポーツイベントの開催	「会津美里ふれあいウォーク2024」を実施し、当日は小雨のため参加者が事前申込者数より減少しましたが、ボランティアによる心のこもった接客により、参加者の交流を深め満足度の向上に繋がりました。
② スポーツの交流の促進	福島県内における市町村対抗等のスポーツ活動の成果を競い合うスポーツ大会への参加を通して、技術や意欲の向上だけでなく、町民の郷土愛の醸成や他市町村との交流を行うことができました。 今後もスポーツ大会への選手派遣や参加を支援し、地域の活性化を図ります。

＜今後の方向性＞

- ・スポーツ活動の参加支援

4 地域文化の振興

郷土資料館「さとりあ」が令和5年10月に開館し、町の歴史や文化に関する資料の保存、活用、情報発信の拠点として機能を果たしています。町民や小学生を対象とした歴史副読本を活用し、町の歴史や文化に関する関心を高めました。また、各地区の町民文化祭が文化団体等の成果発表の場として定着し、参加団体の活動意欲の向上、地域の芸術文化活動の活性化が図られました。

今後は人口の減少や高齢化に対し、次世代に継承できるような具体的な取組を進めていく必要があります。

○会津美里町第3次総合計画における数値目標の達成状況

成 果 指 標	現状値 (H30)	実績値 (R 3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	目標値 (R 7)
町内文化財の保存・活用事業の件数（件）	131	126	146	122	169	207
地域の歴史や文化財に親しむ機会を持った方の人数（千人）	1.25	1.39	1.86	2.30	3.21	1.57
町の歴史文化に興味・関心がある町民の割合（％）	10.2	7.5	9.9	12.5	17.9	18.5

◆郷土資料館の開館に合わせて、町内文化財の保存・活用事業の件数は増加しつつありますが、目標値には届いていない状況です。しかし、地域の歴史や文化財に親しむ機会を持った方は目標値を超え、町の歴史文化に興味・関心がある町民の割合は、目標値に近い割合まで増加してきました。

(1) 文化財の保存と活用

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① 文化財の保存・継承	<p>今後の向羽黒山城跡の保存及び活用の指針となる「向羽黒山城跡保存活用計画」を令和7年度までの2年間で策定するため、城郭専門家等による計画策定委員会を組織し、保存及び活用の現状と課題について整理することができました。</p> <p>今後は、存在が知られている文化財資料の状況を確認し管理体制を整える必要があります。</p>
② 文化財の有効活用	<p>地域住民を対象とした「地域再発見事業」や小学生を対象とし歴史副読本を活用した「天海大僧正について知ろう授業」の開催により、歴史や文化に関する関心を高めました。また、会津美里町郷土資料館は、町の歴史や文化に関する、資料の収集、保存、調査研究、情報発信の拠点としての機能を果たしました。</p> <p>引き続き、郷土資料館を中心に、常設展、企画展をはじめとした積極的な情報発信をしていく必要があります。</p>

＜今後の方向性＞

- ・郷土資料館を拠点とした文化財を有効活用するための事業実施
- ・文化財の適切な保存、継承活動の支援

(2) 伝統文化の継承

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① 無形民俗文化財の保存活動の支援	<p>生涯学習センターにおいて、郷土芸能「高田甚句」太鼓伝承教室などを開催し、保存団体の意欲の向上や伝統文化の継承に寄与しました。</p> <p>今後も伝統文化、芸能を後世に継承するための支援を行います。</p>
② 後継者の育成	<p>保存会の解散により存続の危機にあった「高橋の虫送り」は、有志の方々による新たな保存団体の立ち上げを支援したことで継承することができました。</p>

＜今後の方向性＞

- ・次世代に継承できるような具体的な取組を保存団体と連携しながら調査・研究を行う。
- ・無形民俗文化財の保存活動を支援。

(3) 芸術・文化活動の推進

施 策	これまでの取組内容・成果・課題
① 芸術・文化団体等の育成・支援	<p>町民文化祭が文化団体等の成果発表の場として定着しており、参加団体の活動意欲の向上と地域の芸術・文化活動の活性化が図られました。また、美里ペンクラブとの共催により、町内の児童生徒を対象として作文・詩・短歌・俳句の4分野の作品を募集して行う「ジュニア文芸賞」の表彰は、児童生徒の文学的素養の発掘や表現力を育む機会となりました。</p> <p>引き続き、各種文化団体等の成果発表の場として町民文化祭を継続して開催する必要があります。</p>
② 芸術・文化に親しむことができる環境づくり	<p>「公共ホール音楽活性化事業」により、中学2年生を対象として実施したアクティビティ(交流活動)で金管楽器の魅力を体感するとともに、演奏家の話を通じて、職業や進路を考えるきっかけとなりました。また、コンサートには多くの町民が来場し、好評を博しました。</p>

＜今後の方向性＞

- ・各地域の文化団体の活動継承に対する支援の強化
- ・芸術文化団体の発表の場の文化祭の継続開催